



Title	Environment-Behavior Research for Advanced Design in the Open Transformation of Urban Housing Blocks in China [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	黄, 佳喻
Citation	北海道大学. 博士(工学) 甲第14000号
Issue Date	2020-03-25
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/78393">http://hdl.handle.net/2115/78393</a>
Rights(URL)	<a href="https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/">https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/</a>
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Jiayu_Huang_review.pdf (審査の要旨)



[Instructions for use](#)

## 学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称 博士(工学) 氏名 黄 佳喻

審査担当者 主 査 教 授 森 傑  
副 査 教 授 小澤 丈夫  
副 査 准教授 小篠 隆生

### 学位論文題名

Environment-Behavior Research for Advanced Design in the Open Transformation of Urban Housing  
Blocks in China

(中国における都市住宅ブロックのオープン化に関する環境行動デザイン研究)

中国では近年、都市生活者への住宅の大量供給と都市交通の需要量の急激な増加の中で、都市部における良好な住環境と効率的な移動環境の両立が模索されている。そのような中で注目されているのが、都市部の住宅地の一般的な形態である住宅ブロック(以下、都市住宅ブロック)のあり方である。都市住宅ブロックはこれまで、基本的に塀や柵などで住棟群は閉鎖的に囲われ、一般交通は通り抜けができない構造となっていた。その構造が急増する自動車交通の妨げとなっていることが指摘され始め、中央政府は2016年2月、都市住宅ブロックを解体しオープン化するためのガイドラインを示した。ガイドラインでは、交通問題を解消すべく都市住宅ブロックの境界となる壁などを撤去し、幹線道路とブロック内道路を接続することとしている。しかし、このような都市住宅ブロックのオープン化は、これまでブロック内でみられた居住者による住宅周りの屋外空間の使いこなしや日常的な活動に大きな影響を与えることが想定される。

本研究は、ブロック内における住民の活発な屋外活動や能動的な生活領域の形成に着目し、都市住宅ブロックの物理的な境界が撤去されることによる居住者の領域意識や活動内容の変化と適応性を明らかにし、環境行動デザイン研究の立場から、都市住宅ブロックのオープン化を進める上で、居住者の生活環境の維持と改善に寄与する計画的方策を提案することを目的としている。

第1章では、都市住宅ブロックとそのオープン化の定義を明確にし、研究の背景および課題を整理したうえで、目的を論述している。

第2章では、既往研究について、都市住宅ブロックのオープン化に関連する政策を整理してその経緯と内容を明らかにしたうえで、環境行動デザイン研究の理論および方法論を踏まえ、本研究の位置づけを行っている。

第3章では、中国における都市住宅の発展過程とその特徴を整理している。旧ソ連の影響を受けた住区建設から始まり、1980年代の独自の住宅開発方針を経て、20世紀末には2度の住宅制度改革を経験している。これらは、都市住宅ブロックの形成に深く関わっており、オープン化を進めるうえで重要な経緯であることを述べている。

第4章では、都市住宅ブロックの物理的な特徴や実態を俯瞰的に把握する統計的・量的分析と、都市住宅ブロックの空間構造や居住者の行動特性を解明する質的分析を組み合わせることによる研究方法の特徴と有用性を示している。

第5章では、再開発によりオープン化が進められている都市住宅ブロックの空間形態を分類し、

住棟の配置や道路、周辺地域との関係性など、基本的な条件の差によりオープン化の状況が異なることを明らかにしている。

第6章では、都市住宅ブロックのオープン化が居住者の環境-行動関係に与える影響を分析している。オープン化が進められた事例とまだオープン化されていない事例との比較を通じて、都市住宅ブロックの境界となる壁の存在の有無により、空間利用や日常行動に差がみられることを指摘している。

第7章では、都市住宅ブロックのオープン化が居住者のテリトリー感に与える影響を分析している。居住者の空間認知や行動、空間構成を複合的に比較した結果、ブロック内では空間帰属意識が高く、住棟間の公的空間の使いこなしがみられたことを明らかにしており、オープン化される住区でこれらがいかに継承できるかが重要であると指摘している。

第8章では、各章の分析を踏まえ、都市住宅ブロックのオープン化が進められる中で、居住環境を持続的に更新するための提言をまとめている。具体的には、1) 空間計画として、規模や住棟の数と配置、周辺地域との関係によって、全ての囲いを取り除くだけでなく、住棟間の空間利用を維持したり通過交通を制限したりする方策をとること、2) 維持管理計画として、通過交通に対する住環境の安全性を支える共同の管理組織を設立すること、3) 居住者への啓発として、政府機関と居民委員会などの社会組織が協働し、都市住宅ブロックのオープン化に関する政策を理解し議論する機会を設けること、を提案している。

これを要するに、本論文は、中国の都市生活者の日常の様々な営みに密接に関わる都市住宅ブロックの実態についての実証的な分析とそこで明らかとなった課題の具体的な解決へ向けての学術的・制度的な方策について新たな知見を得るものであり、建築計画学さらには生活の質の向上に資する価値明示的な知見とその応用を重視する環境行動デザイン研究に対して学術的な開拓として貢献するところ大なるものがある。

よって著者は、北海道大学博士(工学)の学位を授与される資格あるものと認める。